

～青島の発展を象徴する都市 青島市黄島区～

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
和木田 真功

青島市は、6区(市南区、市北区、李滄区、城陽区、黄島区、滄山区)、4市(膠州市、即墨市、平度市、萊西市)の行政区で構成されています。今回は、その中でも発展著しい黄島区についてご紹介致します。

黄島区は、旧市街と膠州湾を隔てた対岸に位置し、青島経済技術開発区を有しています。「青島経済技術開発区」には、青島市に本社を置く家電メーカーの「ハイセンス」や「ハイアール」をはじめ、国内有力企業の多くが工場等を設置しています。また1992年には保税區が設置され、国際貿易、国際商品の展示など国際物流の中心としての一面も持っています。さらには、2014年に「青島西海岸新区」として承認され、國務院指導のもと、国家戦略として開発を進めることになりました。かつては、旧市街から黄島区に移動するには、フェリーや高速船、高速道路を利用しなければならず、交通の便は決してよくはありませんでしたが、2011年に海底トンネルが開通し、移動時間が格段に短縮されました。私も、旧市街からバスで海底トンネルを通り黄島区を訪れたのですが、所要時間の短さと、トンネルを抜けた際に一面に広がる造船会社の工場の規模に圧倒されたのを覚えています。

上記だけを読めば、工業に特化した区と思われがちですが、近年観光面においても注目を集めています。夏になると「金砂海岸」といわれる、東西3.5キロに及ぶ長い海岸線と、金色に輝く砂が特色のビーチに多くの方が訪れます。また、台湾資本の高級リゾートホテル「ザ・ラルーホテル」もオープンし、オーシャンビューの立地の良さや施設の豪華さも評判となりました。そして、近年最も注目されているのが「東方影視城」の開発です。

この「東方影視城」は、「東方のハリウッド」と銘打ち、中国一の富豪で不動産大手・大連万達集團の王健林(ワン・ジェンリン)会長が500億元を投資し、広大な敷地に映画産業区や大型ホール、ホテルや娯楽施設などが作られる予定です。私が昨年見学した際は、人工島の建設がされているところでした。その広大な敷地と規模の大きさに映画を中心とした「世界最大の複合施設」を目指す意気込みの強さを実感しました。2013年9月の起工セレモニーにはあのレオナルド・ディカプリオやニコール・キッドマン、キャサリン・ゼダ=ジョーンズなどハリウッドスターが集まり中国国内でも大きな話題となりました。2016年には青島国際映画祭の開催が予定され、2017年に正式開業が予定されています。

現在青島市では、市南区や市北区などを中心に地下鉄の建設が進められ、一部区間では運行を開始しています。将来的にはこの黄島区との間にも地下鉄が開通する予定であり、そうなるにより一層アクセスがよくなります。工業や観光面で今なお発展を続ける黄島区は、まさに青島の発展を象徴しており、今後もその発展から目が離せません。



【東方影視城のシンボル】



【東方影視城 完成予定図】